

別紙 4 外構施設整備計画要領

1. 外構施設の整備

外構施設の整備内容は、次のとおりである。

■外構施設の整備	
共通事項	<ul style="list-style-type: none"> ・北側の児島公園と調和し、一体性のある整備とすること。 ・ユニバーサルデザインに配慮すること。 ・セキュリティに配慮した、死角が少なく見通しが良い、安心安全な計画とすること。 ・メンテナンスしやすく、ランニングコストに配慮した計画とすること。 ・緑化については、倉敷市緑の基本計画及び倉敷市自然環境保全条例に基づき行うこと。 ・「建築物移動等円滑化誘導基準」及び「都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン」に適合していること。 ・龍王山や港・海とのつながりを大切にし、これを活かした魅力ある都市景観の創出を図ること。児島駅前 24 号線（民話通り）幅員 30 m の延長線上には、原則として建屋等を建築しないこと。 ・照明設備については、構内のセキュリティ、歩行者の安全を考慮し設置すること。 ・維持管理上必要な電源を適宜設ける。 ・舗装・各種仕上の種類の選定にあたっては、安全性、快適性、景観等への配慮、排水負担の軽減等を考慮すること。 ・大型噴水モニュメントは撤去処分すること。
動線計画	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行者動線は、市道「児島駅前 24 号線」民話通りと「児島駅前 19 号線」の丁字路を主とした敷地内への出入口とする。敷地内の「児島駅前 24 号線」民話通りの延長線上となる部分は、原則として龍王山への景観を損ねる建屋等を建築禁止とし、敷地西側市道「児島駅前 16 号線」に至るまでをプロムナード（下記参照）とし、プロムナード西端は掲揚台を撤去し、西側出入口（幅 8 m 以上）を新設する。車両動線は敷地西側及び南側の市道「児島駅前 16 号線」及び「児島駅前 28 号線」からの車両出入口を 1 以上設けること。 ・自動車の通行する道路に接する出入口でない場所には、植栽や囲障を設置することにより、安全性を確保すること。 ・敷地内歩車分離に配慮すること。 ・駐車場から各施設出入口までの円滑なアプローチ動線を確保すること。合わせて敷地外から各棟出入口までのアプローチ動線についても視覚誘導ブロック設置やサインの設置を行うこと。 ・駐車場から北側の児島公園へ維持管理やイベント開催に際して、大型の車両が通行できるようにすること。 ・ホールを使用するイベント時等において、駐車場の部分をバスの転回やイベント資材の搬入等の動線に活用できるよう配慮すること。 ・駐車場の一部等を活用したイベント開催（キッチンカーの駐車・飲食物の販売）も可能な計画とすること。 ・公共交通機関（電車・路線バス）の利用者を想定した歩行者動線・歩行者用出入口を適宜設けること。
プロムナード	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地内の民話通りの延長線上の施設、舗装、サイン等は、複合施設側、公園側いずれも、龍王山への景観を損ねないものであることのみならず、敷地の重要動線であり、景観上も重要なものであること

別紙 4 外構施設整備計画要領

	<p>に配慮した公園と一体性のある計画とすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西端の市道「児島駅前 16 号線」との境界付近には、車両侵入措置を設けること。 ・舗装については、滑りにくい安全性の高いものとする。適切な排水処理が施されていること。車両の通行を想定すること。
連絡通路	<ul style="list-style-type: none"> ・市立短期大学棟（本校舎）と（仮称）地域交流スクエア棟を連絡する、平屋建ての連絡通路を設置すること。 ・規模等に規定はないが、景観を阻害しない最小限の建築とし、外観においても、景観との調和を第一とした、公園施設にふさわしい外観とすること。 ・市立短期大学棟（本校舎）と（仮称）地域交流スクエア棟を一棟として計画することは差し支えない。ただし、別棟とする場合は「岡山県建築基準法等運用基準（開放廊下で接続する場合の取り扱いについて）」等に基づく「別棟扱い」の構造とすること。 ・連絡通路は、必要最低限の高さで学生の移動、イベント、催事での利用に対して十分な幅員を有するものとする。公園やプロムナードとの一体性にも配慮し、駐車場から公園へのゲート口にもなることに配慮した計画を行うこと。なお、車両の横断も考慮すること。 ・連絡通路は、プロムナードの南端から 5 m 程度に配置することを原則とする。 ・児島公園を含む、敷地全体のバランスを考慮して、ベンチ等の施設を適宜配置すること。 ・駐車場から各施設まで安全かつ快適に移動できるよう配慮すること。 ・照明は、安心して利用できるよう十分な照度を確保すること。 ・点滅方式は外光や人感による自動点滅及び時間点滅が可能な方式とすること。
駐車場	<p>（複合施設整備用地）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複合施設整備用地において、駐車マス进行を設けること、うち車いす使用者用駐車場は、屋根付き（市立短期大学（本校舎）及び（仮称）地域交流スクエア棟まで濡れないよう整備）で 2 台以上を確保すること。短期大学用公用車駐車場として 2 台分を整備すること。児童館用公用車駐車場として 1 台分を整備すること。 ・駐車場法に基づく路外駐車場としての設置基準を満足していること。 ・（仮称）地域交流スクエア棟に接した適切な場所に、荷下ろしスペースを設けること。荷下ろしスペースは 4 t ロングトラックが寄り付けることを想定して計画し、至るまでの適切な動線を計画すること。なお、4 t ロングトラックは通常の車両出入口に加えて西側出入口も利用できるものとして計画して良い。 <p>（（仮称）倉敷ファッションセンター棟）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（仮称）倉敷ファッションセンター棟において、現駐車場を改修し駐車マス进行を設置する。車いす使用者用駐車場は、屋根付き（（仮称）倉敷ファッションセンター棟まで濡れないよう整備がのぞましい）で 2 台以上を確保すること。 ・駐車場法に基づく路外駐車場としての設置基準を満足するための区画線の引き直しや出入口の改修を行うこと。ゲート用の予備管を敷設すること。

別紙 4 外構施設整備計画要領

	<p>(共通)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車マスは複合施設整備用地と（仮称）倉敷ファッションセンター棟の合計で 110 台以上（公用車を除く）を最低限の整備台数とし、可能な限りの駐車台数を確保すること。 ・ 「都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン」に適合していること ・ 駐車場から各施設まで快適かつ安全に移動できるよう配慮すること。 ・ 駐車場出入口は、適宜、一時停止や進行方向を表示すること。 ・ 駐車場出入口には、入出場管理用のゲートスペースを設けること。 ・ ゲート用の予備配管を見込むこと。 ・ 安全柵、車止め、駐車場表示を適宜設置すること。 ・ 駐車場、各施設への動線上には照明を設けること。 ・ 照明は、安心して利用できるよう十分な照度を確保すること。 ・ 点滅方式は外光や人感による自動点滅及び時間点滅が可能な方式とすること。 ・ 中央監視室より点灯操作可能な方式とすること。 ・ 適宜、電源（1.5kW 程度）を 2 箇所以上設置すること。 ・ 駐車場は、意匠性に配慮し、周辺景観にも配慮すること。 ・ 障がい者等用駐車場から連絡通路まで雨天時も含め安全かつ快適に移動できるよう配慮すること。
駐輪場	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市立短期大学（本校舎）に隣接した、外部からアプローチしやすく、利用者が安全に短期大学に移動できる場所に自転車 100 台分以上、普通自動二輪車 5 台程度の屋根付き駐輪場を整備すること。 ・ （仮称）地域交流スクエア棟に隣接した、アプローチしやすく、利用者が安全に（仮称）地域交流スクエア棟に移動できる場所に 自転車 50 台以上の屋根付き駐輪場を整備すること。 ・ （仮称）倉敷ファッションセンター棟の駐輪場は既存利用を原則とするが、提案で撤去新設する場合は、現行の台数程度の駐輪場を整備すること。 ・ 駐輪場は、動線を考慮して配置するものとし、意匠性に配慮し、周辺景観にも配慮すること。 ・ 自転車、普通自動二輪車の出し入れに支障の無い通路幅を確保すること。 ・ 普通自動二輪車が斜めにならずに駐輪できる奥行を確保すること。 ・ 駐輪場、各施設への動線上には照明を設けること。 ・ 照明は、安心して利用できるよう十分な照度を確保すること。 ・ 点滅方式は外光や人感による自動点滅及び時間点滅が可能な方式とすること。 ・ 中央監視室より点灯操作可能な方式とすること。
舗装	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通行や管理のために、必要な範囲において、舗装を行うこと。 ・ 舗装材については、安全性、耐久性や意匠性に配慮し、適材適所とすること。
サイン計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設案内のためのサイン（館名板、案内用掲示板、サインポールを含む）を適宜設置すること。 ・ 敷地内及び周辺地域の景観に配慮したものとし、複合施設全体で統一されたデザインとすること。 ・ 児島公園と一体性のあるサイン計画とすること。 ・ 安全かつ、みやすく、J I S 規格に準拠したピクトサインを活用し

別紙 4 外構施設整備計画要領

	たものとしてすること。多言語対応すること。
植栽	<ul style="list-style-type: none"> ・植樹の際は、維持管理が容易な樹種とし、敷地外や建築物、排水管及び舗装等への影響に配慮すること。 ・樹種の選定については、周辺環境との調和、景観、施設の特性を考慮することに加え、可能な範囲で四季を感じることができるものとし、木陰や落葉の影響、根上がりなどを考慮すること。 ・敷地内への出入口を除く部分には、囲障として中低木を植樹すること。 ・雨天時に植栽部分の地面が流出しないよう配慮すること。
■屋外照明・屋外給排水設備	
屋外照明設備	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯、安全等を考慮した屋外照明設備を設置すること。なお、点滅方式は外光や人感による自動点滅及び時間点滅が可能な方式とし、事務室、中央監視室で操作可能なものとしてすること。
屋外散水栓	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、散水栓を設置すること。なお、配置に際して、適切な散水方式としてすること。
雨水排水側溝等	<ul style="list-style-type: none"> ・安全性・耐久性が高く、メンテナンスしやすいものとしてすること。
雨水流出抑制施設	<ul style="list-style-type: none"> ・緑化の推進等を図るとともに、倉敷市総合浸水対策の推進に関する条例等による検討を行い、必要な雨水流出抑制施設を整備すること。 ・雨水流出抑制施設の種類、位置、規模は提案によるが、メンテナンスがしやすく、ランニングコストの低廉な施設としてすること。